

大樹に開設予定の大気球観測所

年2回実験予定 町民も見学可能

JAXXA センター長 吉田氏が説明

【大樹】町は6日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)大気球観測センターの吉田哲也センター長を招き、大樹に5月に開設される大気球観測所についての概要説明会を町生涯学習センターで開いた。吉田センター長は気球を使ったこれまでの実験や、大樹での実施予定などを説明した。

町長が「経済波及効果も期待できる。町としても支援したい」とあいさつ。引き続き、吉田センター長の説明に入った。

吉田センター長は気球を使用した宇宙科学研究の特徴や、これまで三陸大気球観測所(岩手県大船渡市)で打ち上げてきた実験内容について解説。「ロケットや人工衛星に比べ、(気球は)観測機器などを多く搭載できること、安価な飛行コストなどが強みとし、三陸では413機を放球

し、高度25〜53キロで観測してきた。最大で東京ドームの大きさで話した。大樹では5〜6月、8〜9月の年2回、実験を行う予定。吉田センター長は「町民が見学できるように工夫したい」とも述べた。

大気球観測所は、科学観測用の気球を打ち上げる国内唯一の実験場。観測機器や気球の大型化が進んだため、広い放球場が必要となったこと、打ち上げ経路に民家が少ないことなどから、大樹が岩手県からの移転先に選ばれた。(北雅貴)



大気球を使った宇宙科学研究について説明する吉田センター長